

令和5年度 学校アンケート集計結果（教職員）令和5年 1 1 月実施

1 自己評価

回答者54名（100%）

	評価項目	評価指標（評価の観点）	評価（％）				概 評
			A	B	C	D	
1	新学習指導要領に基づく教育体制の整備、授業改善、学習評価の工夫改善及び進学型単位制の趣旨を活かした教育体制の整備	新学習指導要領に基づき、効果的な教育活動ができたか	44.4%	53.7%	1.9%	0.0%	いずれの項目でも昨年度より評価が上がっている。新課程も2年目を迎え、その対応も順調に進んできたことがうかがえる。中でも「内規及び教育体制の整備」はC評価がまだ7%以上あることから、整備の途上にあることがうかがえる。一方で「新学習指導要領に基づいた、探究的な教育活動」と「探究的な学びを実践するための指導の工夫」ではC評価は1.9%となり、タブレットや電子黒板の活用も十分に普及してきたものと考えられる。今後も活用事例の蓄積や教材の充実に努めていきたい。
		進学型単位制の導入に伴い、内規及び教育体制を整備できたか	25.9%	66.7%	7.4%	0.0%	
		「質」の高い教育を維持するとともに「主体的・対話的で深い学び」、探究的な学びを実践するための指導法の工夫（ICT機器の活用など）を図ることができたか。また、学習評価の工夫改善を図ることができたか	35.2%	63.0%	1.9%	0.0%	
②	大学入試改革への対応、学力向上と進路意識の高揚を目指した組織的な取組の強化、幅広い教養と将来の自己実現の基盤となる心豊かな人間性と自己指導能力の育成	大学入学共通テスト、個別入試等の情報収集及び対策を検討することができたか。また、UJOKOZAの実施内容を改善することができたか	42.6%	50.0%	5.6%	1.9%	両項目ともに昨年度より評価が上がっている。昨年度、内容を学力向上から「幅広い教養と自己実現の基盤の育成」へとシフトした。UJOKOZAは、リニューアル2年目を迎え評価は上々である。生徒からも講座内容に対する建設的な要望や提案も出ており、外部講師の効果的な招聘も含めて、今後も組織的に継続できるよう、より一層の工夫改善の努力が必要である。UJOKOZAのリニューアルを受け「心豊かな人間性と自己指導力の育成」の評価も上昇している。UJOKOZAや「総合的な探究」、「自由研究」などが効果的に機能し、それが今年度の総合型選抜による大学入試にも好影響を与えていると思われる。
		幅広い教養と将来の自己実現の基盤となる心豊かな人間性と自己指導能力の育成に取り組むことができたか	51.9%	48.1%	0.0%	0.0%	
③	「総合的な探究の時間」における探究活動の充実、課題研究から自由研究へと発展する探究活動の展開	「総合的な探究の時間」における探究活動を充実させ、3年間の連続性のある計画的な実施をすることができたか	38.9%	51.9%	9.3%	0.0%	「総合的な探究の時間」、「自由研究」についてはB評価が減少しA評価とC評価増えた。タブレットの活用が進み、生徒のスキル（まとめや発表）が向上したり、アプローチできる分野が増えた反面、単なる調べ学習に陥る懸念もあるため、研究やデータ分析の手法など、探究の基本をしっかり学ぶ場の設定が必要である。3つめの項目は、今年度より評価の対象となった。各教員が試行錯誤しながら、様々な教育活動の中で探究につながる諸活動を実施しようと努力されている様子がうかがえる。今後は事例研究等を通して、多くの職員間で情報を共有することも必要かと思われる。
		本校特有の「自由研究」への積極的な取組を推進することができた	27.8%	50.0%	20.4%	1.9%	
		あらゆる教育活動において、探究につながる授業及び諸活動ができたか。	31.5%	64.8%	3.7%	0.0%	
④	家庭と連携した生徒指導や教育相談の充実、学校ホームページ等による保護者・地域への積極的な情報発信	生徒の情報の速やかな把握と共有化及び保護者や関係諸機関との連携強化を図ることができたか	40.7%	53.7%	5.6%	0.0%	両項目とも昨年よりAの割合が増加している。一方で「生徒情報の速やかな把握と保護者や諸機関との連携強化」では、昨年見られなかったC評価がみられた。多様化した生徒が増加しつつある現在、保護者や諸機関との連携強化はますます重要となる。また、コロナの感染法上の位置づけが第5類に移行したことにより、部活動の制限が緩和されたことが2番目の項目の評価を押し上げた理由と考えられる。今後も情勢の変化に迅速に対応できるよう、継続的な点検・見直しが必要である。
		部活動の適正な実施と不断の見直し・点検、コロナ禍における感染防止対策の継続、ヒヤリハットの共有等が適切に行えたか	38.9%	61.1%	0.0%	0.0%	

評価基準 A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する D：一層の努力を要する

令和5年度 学校関係者評価結果（学校評議委員5名）令和6年 1 月実施

・教職員一丸となり、様々なことに組織的に取り組まれている。学校行事では生徒が主体的に動き、素晴らしい。「質」の高い教育の維持と課外活動の充実を図った上で、単位制の内規及び教育体制の整備を継続してほしい。 ・高校1年生の「総合的な探究の時間」は、とすると調べ学習的になってしまうがやむを得ない面もある。ある程度高い評価は得られており、探究活動の充実に向けての取り組みを期待している。探究活動成果発表会で成果を見るのを楽しみにしている。 ・アンケートでは、保護者及び生徒も多くの項目で満足している。入学時から高い期待を持っており、意見や要望は教育への関心の高さの表れである。 ・UJOKOZA(自由参加型となり2年目)は幅広いテーマ・内容の「学びの場」として定着している。様々な理由で当日参加出来ない生徒のために、可能な範囲でアーカイブ等により閲覧できるようになるとよい。 ・宇都宮や栃木県の歴史の講座があったら、地元に誇りを持てるようになるのではないかな。外部講師を依頼するものもあるが、多くは先生方の企画であり、負担や過剰にならない範囲で進路希望の実現を支援してほしい。 ・評価CとDの合計が7%を超える観点については、今後検討の余地がある。特に③の「自由研究」への取組については評価の根拠を探り、改善が必要かもしれない。 ・一方、②・④のCとDの合計が0%は教職員の意欲と成果が垣間見られ、先生方の熱意に拍手を送りたい。 ・「やりたいことがあるなら何でもできる」そのような自由で活動的な憧れの存在としての校風を引き継ぎ、安心して勉学に励める環境(物心両面で)づくりに取り組んでほしい。
--